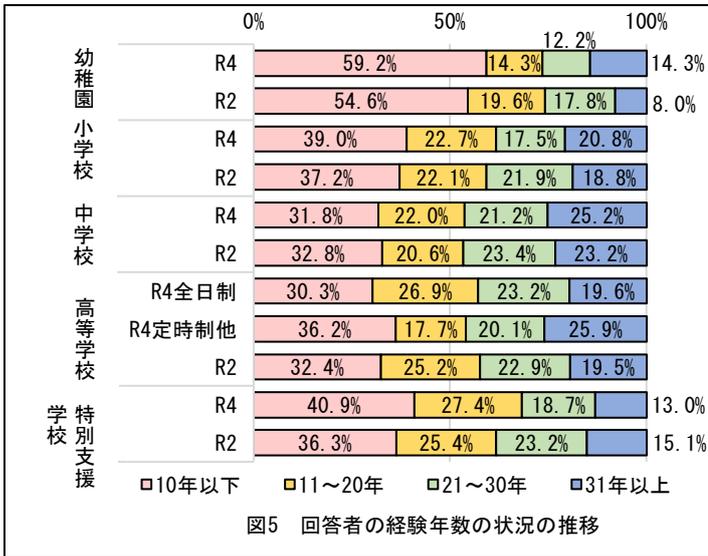


令和4年度養護教諭の職務に関する調査結果概要 報告（全国養護教諭連絡協議会）

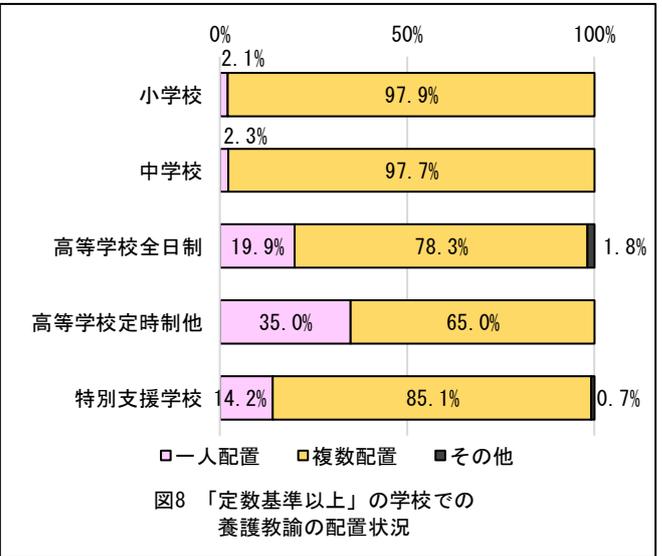
「全国養護教諭連絡協議会 養護教諭の職務に関する調査」へのご協力ありがとうございました。

今回は、学校(園)に勤務する全会員を対象に調査しました。総回答者数は18,813人、回答率は73.4%、令和3年度に関わる設問の回答者（令和3～4年度に同一校に継続して勤務している会員）は13,606人、令和4年度調査に回答した会員の72.3%でした。（図、表は報告書からの抜粋）

1 回答者の状況



2 養護教諭の（定数基準以上）配置状況



回答者の経験年数を前回調査結果と比べると、多くの校種で「10年以下」の割合が高くなっている。

文部科省が定める「定数基準以上」の学校での養護教諭の複数配置状況を見ると、小学校・中学校では整備されているが、高等学校全日制・定時制他・特別支援学校では配置が十分行われず、その他の制度などで配置が進められている。

3 複数配置の効果（効果が特に大きいと思うものを3つ選択）

常時在室できるため、緊急時に迅速に対応できる	68.3%
救急処置において、多面的な判断と処置ができる	63.2%
感染症の予防や発生時の対応を迅速に行うことができる	16.7%
子供の来室時に丁寧な対応ができる	51.6%
心身に配慮を必要とする子供の支援が十分に行える	21.8%
継続的に支援を必要とする子供への対応が余裕を持って行える	15.6%
健康診断の準備・実施・事後指導が余裕をもって行える	34.7%
保護者や教職員との相談時間の確保が容易になる	4.5%
教職員への啓発活動が充実する	2.8%
個別の保健教育の時間確保が容易になる	3.8%
学級等、集団への保健教育の実施が容易になる	15.5%
環境衛生活動や安全点検の取組が充実する	1.5%

上表は、複数配置の効果が特に大きいと思うものの割合である。最も高いのは「緊急時への迅速な対応」、次いで「救急処置での多面的な判断と処置」「子供への丁寧な対応」と続く。

経験年数別に見ると、「緊急時への迅速な対応」と「救急処置での多面的な判断と処置」は、経験年数により大きな差がある。特に「救急処置での多面的な判断と処置」は、経験年数「31年以上」に比べ「10年以下」が10ポイント以上高い。

